

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その1）

河川名	園瀬川	事業名	広域河川改修事業	事業区間	徳島市新浜本町～上八万町	
再評価の実施理由		再評価実施後5年が経過しており、事業の必要性・効率性を再度評価する必要がある。				
未着工或いは事業が長期間要している理由			事業には着手しているが、一連区間を改修する事業計画規模であり、長期の事業期間を必要とするため。			
事業内容	事業目的	河積の拡大、及び、築堤により無堤区間を解消し、浸水被害の軽減を図る。				
	事業実施内容	全体計画延長L=7,515m 築堤606,500m ³ 、掘削 167,700m ³ 、護岸 12,221m、樋門6基、道路橋4橋、JR橋1橋等				
	目標流量	850m ³ /s	治水安全度（当該事業目標）		1/100	
事業の進捗状況	事業採択年	S21	工事着手年	S22	完成目標年 H29	
	全体事業費（内用地費）	174.0億円 62.3億円	投資事業費（内用地費）	160.2億円（進捗率 92%） 59.4億円（進捗率 95%）		
	事業進捗状況	全体改修延長7,515mのうち、下流から川北地区までが完了している。				
	一連の整備効果の発現状況	改修済区間では浸水被害が軽減され、宅地化が進んでいる。				
事業を巡る社会情勢等の変化	事業目的に関する諸状況	現状での課題	無堤区間における流下能力が不足しており、度々浸水被害を受けている状況である。築堤を行うことにより溢水氾濫を防ぐ必要がある。			
		災害発生時の影響（想定氾濫区域内）	（事業着手時）※流域内資産は現状			
		①浸水戸数：4,106戸 ②浸水面積：438.1ha ③重要な公共施設等：道路（国道438号、県道一宮下中筋線他4路線）、上八万駐在署、八万南小学校、上八万小学校 ④災害弱者関連施設等：協立病院他17病院、みのり保育園他6施設				
		過去の災害実績	（S38～H22の水害統計、H16浸水痕跡マップ）			
		①被災頻度：S38, S43, S46, S47, S49, S51, S54, S57, S62, H2, H10, H16 ②最大浸水戸数：床上387戸、床下5,901戸（昭和49年台風8号及び豪雨） ③最大浸水面積：535.6ha（昭和49年台風8号及び豪雨）				
		災害発生の危険度	①改修目標流量に対する現況流下能力の割合：ブロック①36%、ブロック②24% ②現況の治水安全度：ブロック①1/1程度、ブロック②1/1程度 ※ブロック③～⑤については改修済み			

チェックリストによる河川事業の再評価項目（その2）

河川名	園瀬川	事業名	広域河川改修事業	事業区間	徳島市新浜本町～上八万町
続き	地域の状況	<p>①地域開発の状況 流域内には徳島市の市街地化区域があり、今後も開発が進むと予想される。</p> <p>②地域の協力体制 概ね完了している。関係機関と連携し残区間の用地協力を求めている。</p> <p>③関連事業との整合性の変化 徳島南環状道路</p> <p>④地域の事業に対する社会的評価 無堤地区の解消を行っており、地元の改修に対する要望は強い。</p>			
費用対効果	費用分析	<p>費用： 総費用の算定は、以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総事業費 全体事業費のうち執行済事業費は治水デフレーターで、残事業は将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 建設費 = 74,574 百万円 ・維持管理費 1年間当たりの維持管理費について、施設完成までと施設完成後(50年間)を対象に将来の割引率(4%)を考慮して現在価値化したうえ積算した。 維持管理費 = 2,337 百万円 ・総費用 総事業費+維持管理費で算出した。 総費用 = 74,574 + 2,337 = 76,911 百万円 <p>効果： 総便益の算定は、以下に示すとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純便益 事業中の便益として、年平均被害軽減期待額(33,518百万円)を、寺山地区完成から事業完成までの10年間(平成20年～平成29年)にわたり現在価値化して積算した。さらに事業後の便益として、年平均被害軽減期待額(34,660百万円)を、事業完成後50年間(平成30年～平成79年)にわたり現在価値化して積算した。 純便益 = 980,524 百万円 ・残存価値 評価対象期間終了時点における構造物と用地の残存価値を現在価値化して積算した。 残存価値 = 60 百万円 ・総便益 純便益+残存価値で算出した。 総便益 = 980,524 + 60 = 980,584 百万円 			
		<p>費用対効果分析の結果</p> <p>費用便益比 $B/C = 980,584 / 76,911 = 12.75$ (全体事業)</p> <p>費用便益比 $B/C = 21,031 / 3,178 = 6.62$ (残事業)</p> <p><感度分析結果></p> <p>残事業費：$B/C = 12.73$ (+10%の場合)、$B/C = 12.77$ (-10%の場合)</p> <p>残工期：$B/C = 12.01$ (+10%の場合)、$B/C = 12.08$ (-10%の場合)</p> <p>資産：$B/C = 13.99$ (+10%の場合)、$B/C = 11.51$ (-10%の場合)</p>			